

第一次世界大戦初期から終期にわたる外務省記録を
厳選した貴重史料集。

外務省調査部第一課編

世界大戦関係日本外交文書

(第一卷)昭和14年版

クレス出版

『世界大戦関係日本外交文書』(第一卷) 刊行にあたって

吉村道男

一九一四(大正三)年から一九一八(大正七)年に至る第一次世界大戦の画期的重要性については今さらいうまでもない。幾世紀にもわたって築かれてきた政治的・社会的体制が一時にはほんの数週間のうちに崩れたのはその時であった。……古来の確実なものが失われたのは第一次大戦の時であった。(ガルブレイス)といわれるように、それは未曾有の災害をもたらした第二次世界大戦の要因として、戦争と平和を考えるすべての人類が徹底的に究明しなければならぬ重い課題を提供しているのである。ところが日露戦争後の外債処理その他の難題に追われていた日本にとっては、この戦争はヨーロッパを中心とする「欧州戦争」であり、日本に経済的利益をもたらした「大正新時代の天佑」(井上馨)であった。そのような認識がその後の日本の運命にどう影響したかは今なお重要な課題として横たわっている。日本人の大多数が無関心だった第一次世界大戦は、外交史をはじめとする研究状況においても他の時代よりかなりおかれているといわざるをえない。第二次世界大戦は日本を一方の主要な当事国としたため、それへの関心が圧倒的に高いのは理解できるが、両大戦の連続性を重視する視点は今後さらに要望されるであろう。

今回復刻刊行される『世界大戦関係日本外交文書』第一巻は、昭和十四(一九三九)年三月という第二次世界大戦勃発の半年前に刊行さ

れたユニークな史料集であり、その内容は現在『日本外交文書』の当該期の刊行により公表されているとはいえず、大戦初期から終期にわたる厳選された史料集として、また幾多の新機軸を出していることにより、今日でも見習うべき多くの要素を含んでいる。第一巻だけでその後続かなかつたこの外交文書集は、『サラエボ』凶変ヨリ欧米各国開戦及参戦ニ至ル経過並日独開戦及ニ関連セル帝国ト他国間ニ行ナハレタル外交交渉』と要約されたように、すぐれた世界史的認識の下に日本の関与した過程を跡づけようとしている。

第一次大戦の責任問題から自国の立場を弁明する目的で編纂された各国の外交文書集公表に刺激されて、日本でも外交史料の整理と公刊とが要望され、その具体化に着手したのは昭和八年調査部が設置されたからであり、世界大戦関係文書も同時期に業務が開始され、一時事務の停頓をみたが昭和十四年になって一四四頁にわたる大冊が刊行された。他国の外交文書集がすでに公表された段階で、「機密扱」とされたのは、中国の第一次大戦加入問題に関する文書が収録されていたためであろうといわれる。このように第一次大戦をめぐる日本と中国への交戦当事国の働きかけ、それへの対応など、今日でも形を変えて存在する国際社会のダイナミクスを理解する上でも欠かせない史料集といえよう。

(『日本外交文書』編纂委員)

世界大戦関係日本外交文書 第一巻 目次

- 第一章 「サラエボ」凶変ヨリ欧米各国開戦及参戦ニ至ル経過
- 第二章 日独開戦
開戦ニ至ル迄ノ経緯ノ在敵国及敵国占領地帝国国外交官及居留邦人引揚
- 第三章 帝国及連合各国間ノ外交交渉
四国同盟ニ関スル交渉ノ单独不講和宣言加入ニ関スル交渉

第四章 連合国側ニ支那引入問題ニ関スル諸交渉

欧州開戦ヨリ米独国交断絶迄(支那ヨリ連合国ニ武器供給問題、在支独塊人ノ陰謀、連合国側ヨリ戦争ニ支那引入提議、右ニ対スル帝国ノ反対態度等)ノ米独国交断絶ヨリ支那参戦迄(帝国ノ支那ニ対スル米独ノ对独国交断絶勧誘提議支持、对独断交問題ニ関スル支那政府内ノ対立、支那ノ对独国交断絶、支那ノ对独塊宣戦ト右決定ニ至ル迄ノ支那政府ノ動向、参戦ニ関スル支那政府ノ希望条件、在支敵国ノ追放等)

使用外務省記録

- 各国元首及皇族弔喪雜件
- 附、即位(奥国支部) 第二卷
- 各国内政關係雜纂(奥洪国)ノ三
- 欧州開戦一件 第一卷ノ第四卷
- 欧州戦争ノ際各國態度一件(英)
- 日独開戦一件(奥勳土トノ国交断絶ヲ含ム)
- 〃〃 (別冊一、二)
- 欧州日独戦争ノ際在外公館及本邦人引揚一件
- 第一卷 独国ノ部 附、青島
- 第二卷 在奥、白、仏公館ノ部
- 欧州戦争關係日英露仏四国ノ同盟ニ関スル意見交換一件
- 英仏露三国ノ单独不講和宣言ニ日伊加盟一件
- (葡国ノ加盟希望)
- 欧州戦争ニ支那引入問題一件 第一卷ノ第三卷
- 支那参戦一件 第一卷、第二卷
- 米独国交断絶ニ伴フ支那ノ对独態度一件
- 第一卷ノ第六卷
- 日独開戦ノ際ニ於ケル对支政策一件
- 欧州戦局ニ対スル帝国ノ態度並政策一件 第一卷

世界大戦関係日本外交文書(第一卷)

内容見本 (86%縮小)

第一章 「サラエボ」兇變ヨリ欧米各國開戦及参戦ニ至ル経過

- 一 駐奥洪臨時代理大使西源四郎ヨリ外務大臣加藤高明宛(イノ一)
電信第四九號 大正三年六月廿八日後 七、一〇發
同 年同月廿九日前 一〇、三五發
- 奥洪國皇儲及同妃殿下暗殺ニ關スル件
電ト共ニ帝國政府ヨリモ市電御發送然ルヘシト思考ス
- 二 外務大臣加藤高明ヨリ駐奥洪臨時代理大使西源四郎宛(イノ一)
電信第二五號 東京 大正三年六月廿九日後 一、〇五發
- 奥洪國皇儲及同妃殿下薨去ニ對シ帝國政府ノ弔意ヲ同國政府ニ申入方電訓ノ件
電信第四九號ニ關シ帝國政府ノ深厚ナル弔意貴官ニ於テ可然奥洪國政府ヘ申入レラルヘシ
- 三 奥洪國大使 Ladislas Müller de Szent-György ヲリ外務大臣加藤高明宛(イノ一)
大正三年六月廿九日附
奥洪國皇儲及同妃殿下薨去ニ關スル通知ノ件

世界大戦関係日本外交文書(第一巻)昭和14年版

● A5判/上製函入/総一、二七〇頁/定価三〇、〇〇〇円(税別)
● 一九九八年二月刊 ISBN4-87733-043-7 C3331

明治期外務省調書集成

全49巻 明治期外交資料研究会編

外交交渉当事者、外交事務担当者によって、自身の経験あるいは事務処理の過程の上で作成された報告書集。

日清講和関係調書集 全13巻

A5判/総八、〇二二頁/揃定価一九三、〇〇〇円

日露講和関係調書集 全9巻

A5判/総五、八四二頁/揃定価一四五、〇〇〇円

外務省制度・組織・人事関係調書集 全9巻

A5判/総五、三〇〇頁/揃定価一三五、〇〇〇円

条約改正関係調書集 全18巻

A5判/総一二、九八〇頁/揃定価二八四、〇〇〇円

日本・中国関係

イギリス外務省文書目録

全3巻 佐藤元英編著

イギリス国立公文書館のチェック・リストから日本・中国関係の外務省文書目録を編集。外交史に限らず、広く日本研究および中国研究にとつて計り知れない価値をもつ一級資料の宝庫。

B5判/総一、七七〇頁/揃定価五五、〇〇〇円

日本外交史料集

再版

全3巻 外務省調査部編纂

徳川幕府の時代より、華府会議に至る日英、日米の関係を、膨大な外交文書を基礎に、外務省調査部が執務用として、昭和十二年、十四年に編纂し、部内に限って配付した貴重かつ信頼の高い史料集。

日英外交史 全2巻 A5判/総一、五二〇頁 揃価三五、〇〇〇円

日米外交史 全1巻 A5判/四四二頁 定価一〇、〇〇〇円

同時刊

日支間並支那二関スル日本及他国間ノ条約大正12年版

● A5判/上製函入/総一、二四〇頁/定価三〇、〇〇〇円(税別)
● ISBN4-87733-044-5 C3331

外務省執務報告

全12巻 臼井勝美・濱口學・原口邦紘解説

外務省の各局部が年度毎に行つた執務を、網羅的かつ具体的に把握できる資料。太平洋戦争に至る日本外交の全貌を明らかにする。

東亜局 全6巻 A5判/総五、〇六二頁/揃価一三五、〇〇〇円

欧亜局 全3巻 A5判/総二、五八六頁/揃価七〇、〇〇〇円

亜米利加局 全3巻 A5判/総二、〇三四頁/揃価五五、〇〇〇円

第二期全9巻 本宮一男・臼井勝美解説

通商局 全4巻 A5判/総四、〇〇〇頁/揃価一〇六、〇〇〇円

條約局 全2巻/情報部 全1巻

調査部 全1巻/文化事業部 全1巻 A5判/総四、三〇〇頁/揃定価一一四、〇〇〇円

外務省公表集

全12巻 佐藤元英監修・解題

外務省から文書によつて発表された主として声明、談話、通告、説明、交換公文などの外交関係記事を蒐集し、記録に留めるために編纂されて、公刊されたもの。大正八年から昭和十八年までの二二輯と「満州事変及上海事件公表集」「支那事変関係公表集」も含む。

A5判/総七、三〇〇頁/揃定価一八二、〇〇〇円

外務省沿革類従

全1巻 小林和幸解説

慶応四年正月太政官に外国事務掛が置かれた時より、明治二年七月の外務省設置を経て、明治九年に至るまでの外務省沿革を輯録。近代的行政機関として創設され確立される過程の外務省の人事、機構、各種施設、機能の変遷の重要部分を伝える基礎資料。

A5判/一、三〇〇頁/定価二五、〇〇〇円